

内部研究会

ヘルスケア研究会の目的と活動

当NPOクラブのヘルスケア研究会(HC)は直接的な販路開拓というよりもヘルスケア分野(医療・介護・健康)の最新情報を入手し、クラブ全体に提供する役割を担っています。この分野の産業育成は国の政策としても最重点項目でもあり、他の産業からの参入も盛んです。そのために、厚労省や経産省、医療機器工業団体などと交流や関係作りに積極的に取り組んでいます。ヘルスケア研究会(HC)の最近の活動として、経産省北海道経済産業局から、第9回日本関節鏡・膝・スポーツ整形外科学会(JOSKAS)での医工連携・出会いの広場の支援を依頼されました。ヘルスケア研究会のメンバーが担当し、出展された22社の中小企業の小間への先生方の案内や、ポスター展示の内容、説明の仕方等について詳細かつ懇切な支援も行いました。

スマートコミュニティ研究会の目的と活動

常に時代の先端技術動向を把握し、中小企業へのフィードバックを図るために、現地、現場、現物を調査するを基本的な方針として、これから社会の潮流です。「スマートコミュニティ」を調査、研究する活動を行っています。「次世代エネルギー関連技術」「新たなモビリティ社会の構築」「スマートハウス、スマートビルの開発」などをテーマに現地見学等を主体に活動しています。

IoT研究会の目的と活動

今日この頃、新聞紙上でIoTの記事を見ない日はありませんが、IoTの内容は千差万別で、機能も分野(業態)も非常に広範囲で一言で言い表すことが出来ません。

経営支援NPOクラブの使命である中小企業支援において、IoTの活用をどのように具体化するか中小企業の皆様と共に考え実現していきたいと思います。企業経営のイノベーションの方策の一つとしてIoTは避けて通れないものです。幅広い業態の出身者によるチームワークと業務知識をもって、NPOクラブの内外でお役に立てるよう鋭意取り組んでいます。



NPOクラブの主な活動

NPOクラブの主な活動は、永年の企業活動で培われた経験や幅広い人脈を活かしながら、全国の中小企業の経営支援(販路開拓・経営相談)を行うことです。

企業ニーズに合わせた総合的かつ細やかな経営支援・コンサルを行います。

また会員の中には、多くの海外駐在経験者がいますので、その語学力およびその地域の文化を知り尽くした会員が、海外向けのHPの翻訳や海外ポータルサイトの作成を行っています。

また、実務経験豊富で多種多様な業種の会員が多くいますので、企業・地方公共機関および学校などの教育機関にも講演会の講師を派遣しています。

詳しくは、下記のホームページをご覧ください。

NPOクラブの内部活動

近年、企業の社会的責任(CSR)も浸透してきましたが、本来NPOクラブは社会貢献活動を目的として設立され、地域活性化の課題・少子高齢化・環境への取り組みを実践してきました。

そこで、ここに紹介している「復興支援」「次世代若者育成支援」など、今後もNPOクラブに期待する声はますます大きくなっています。NPOクラブではその他、「NPOサロン」を開催し、外部講師による講演会などで会員自身も新たな知識を勉強しています。またトーカーサロンや討論会では議論も交わします。各グループ(5チーム)の定例会は毎月開催されますが、会議終了後は神田近辺の居酒屋で「懇親会」を行うのも楽しみの一つです。

その他にも、囲碁の愛好会やゴルフコンペなども開催され、趣味とスポーツでリフレッシュ出来るのも、会員の活性化の一つです。



当クラブキャラクター
「キクゾウ」

認定特定非営利活動法人 経営支援NPOクラブ

認証番号

認定番号

事務局

電話

FAX

E-mail

URL

14生都協市特第1104号 (2002年10月25日)

28生都管第1187号 (2016年12月27日)

〒101-0047

東京都千代田区内神田1-5-13 内神田TKビル6階

03-5577-6785

03-5577-6786

jimu@ka-npo.com

<http://www.ka-npo.com/>

2017.11.2000

こんな活動もやっています!



認定特定非営利活動法人
経営支援NPOクラブ

復興支援

東北・福島復興支援
有機農業団体支援
温泉・町おこし

次世代若者 育成支援

土曜学習応援団
サイエンスアゴラ

内部研究会

ヘルスケア研究会
スマートコミュニティ研究会
IoT研究会



www.ka-npo.com/

東北・福島復興支援

福幸プロジェクトは震災の年から福島県を中心に支援活動を続けています

経営支援NPOクラブは東日本大震災発生から3か月後の2011年6月から福幸プロジェクトを編成し、現在まで長期間継続的な活動を展開しています。

福島の復興は、「農」と「観光」と「再生可能エネルギー」をターゲットに進めてきました。着実に進んできてはいるものの、まだまだ解決しなければならないことが沢山残っています。そんな中、当NPOクラブの幅広い活動が多く組織・機関から認知されてきています。



左：福島第一原子力発電所視察（2017.2）

右：「再生可能エネルギーフォーラムつちゅ」（2015.11）



有機農業団体を支援しています



有機農業団体を中心に、新しい農業を興す団体を支援しています。

- 「二本松市 オーガニックふくしま安達」首都圏販売支援、有機野菜パックの購入、「一坪地主制度」によるお米の購入
- 「ゆうきの里 東和ふるさとづくり協議会」農業ツアー、農家民宿の利用、「桑の里づくり再生事業」支援
- 「新しい農業を創るクールアグリ」支援、農業ツアー、販売支援 大野農園をコアの一つとして、組織化されている「クールアグリ」も含め、さらに石川町地域の創生に取り組んでいきます。

温泉町おこしに取り組んでいます

「つちゅ温泉町の活性化」支援で、再生可能エネルギーをベースにした温泉町おこしに取り組んでいます。

旅館の集客、再生可能エネルギー発電施設の建設などについてバックアップに努め、2015年には「再生可能エネルギーフォーラムつちゅ2015」を共同開催、300人の参加者に土湯温泉に設置された「温泉熱バイナリー発電所」「小水力発電所」の紹介をしました。土湯温泉はさらに温泉を利用した「手長エビの養殖事業」に着手しました。これらの事業を通して町全体の活性化とスマートコミュニティ化を目指しています。



温泉熱バイナリー発電所



小水力発電所

復興から新たな福島創生に向けて！

福島県は、これまでにやってきた復興活動を、より創造的な新しい福島を目指す「ふくしま創生総合戦略」活動へ転換を図っています。当NPOクラブもこの方針に合わせた新しい活動を計画中です。一つ目は、住民がなかなか戻ってこない地域の実情とその活性化に対する取り組みについての研究。二つ目は、イノベーションコスト計画や福島新エネ社会構想を軸とした「浜どおり地区」の創生についての連携です。

福幸プロジェクト活動が6年目に入ったことを機に、2017年2月「福島復興再生5周年記念セミナー」を都道府県会館にて開催しました。約120名の参加者を前に、これまで連携してきた団体から、ご講演をいただきました。



「福島復興再生 5周年記念セミナー」（2017.2）



次世代若者育成支援

土曜学習応援団とは

地域ぐるみで次世代の若者（子供・生徒・学生達）を育成しようと社会教育法が改正され、今「次世代の学校・地域」創生プランが具体化しています。「サイエンスアゴラ」も連動した動きです。こうした中でNPOや企業CSR、スポーツ団体などの役割が大きく期待されています。

若者達の豊かな教育環境づくりに向け、文部科学省の音頭で企業や団体等で組織し同省との連携で出前授業など多様な教育プログラムの促進を図るために「応援団」に2015年度に入団しています。当NPOクラブのサイエンスアゴラの企画活動がきっかけとなり「土曜学習応援団」事務局・地域コーディネーターよりご依頼があり「地域学校協働活動推進フォーラムinつくば」に参加しました。



左：「地域学校協働活動推進フォーラムinつくば」（2017.2）



右：「油圧の話し、柏地域小学校高学年」（2017.8）

サイエンスアゴラ(科学の広場) 2016の風景

ほぼ全業種・業態の企業等の実務経験者が会員である当NPOの特色を活かして16名の会員が「実務の達人」として生徒・学生や若手企業人、教師の方々と、「学校と社会と仕事のつながりを話そう！」のテーマで、対話をしました。

訪問者数は約100名で進路人生相談など具体的に考える面白い企画だと大変喜んでいただきました。



サイエンスアゴラ2016「学校と社会と仕事のつながりを話そう！」

